

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093000059
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	二日市温泉長寿苑そよ風 (ユニット名 天拝・武蔵)
所在地	福岡県筑紫野市武蔵1-1-24
自己評価作成日	平成23年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、家族が安心して豊かに過して頂けるよう全職員が入居者、家族の話を傾聴し入居者の気持ちに沿った介護を実践し日々の様々な支援にあたっている。グループホームが開設し5年目を向かえ、在宅マツサージ、訪問看護、訪問歯科、かかりつけ医の往診といった医療面での充実と地域との繋がりが更に深まり地域サロンの参加や相互のイベント時の協力、災害時の対応で地域と事業所が一体となって対応することが可能となった。昨年度より実施している買物・外食といった個別支援も継続して行い、家族も共に参加頂くいちご狩りやバーベキュー、目の前で握ってくれるお寿司等といった様々なイベントを行い、入居者、家族、皆様充実かつ楽しんで参加頂いる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉が湧き出る恵まれた環境にある。一人ひとりの気持ちに沿った介護を目指そうと基本的な考え方に戻り、毎日入浴できるような態勢に7月から取り組み始めている。災害時の連絡対応マニュアルを作成し、年に2回防災訓練を実施している。火災通報ボタンを押せば、職員の携帯へ自動通報する仕組みとなっている。また、東北の大震災を受けて今後については、地域と合同で災害訓練を実施する予定である。区長を通して、計画の段階からの参加要請があり、9月に話し合うなど、地域との協力体制の強化を図っている。厨房職員が目前で握る寿司や、裏山の竹を切って作るそうめん流し等毎月趣向を凝らした食事イベントを企画し本人や家族に楽しんでもらえるよう取り組んでおり、今後大いに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あせらず、ゆっくり、あなたの自立を支援します。地域とのふれあいを大切にします」と事業所独自の理念を掲げ、日々職員はあせらずゆっくりと入居者の気持ちに沿って穏やかな時間を過ごして頂いている。	グループホーム創設時に管理者及び職員で話し合い、作った理念を玄関の中央に掲げ、来訪者にアピールしている。毎月の会議では理念を確認・共有し、日々の業務に活かすように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月二回の夜間パトロールに職員が参加し、行事の際にボランティアとして参加頂く。また入居者は毎月地域のサロンに参加し、日常的に交流が行えるようになった。	ホーム内で出る資源ごみを集めて町内の費用に寄付している。ホームの敷地内で行われる花見会、夏祭り、餅つきなどには地域住民の参加がある。また、隣接する保育園児との交流も新たに始まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年より地域の方を対象とした意見交換会を4ヶ月に一度開催し、認知症の理解を始め、オムツの換え方など幅広く行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催を行う。利用状況、事故、サービスの修正等の報告、話し合いを行う。そこの意見を月一度の部署会議などにつなげサービスの向上に活かしている。	運営推進会議参加者は区長、老人会会長、民生委員、市役所職員、包括支援センター、家族代表等である。東北大震災発生を受け、災害時にはホームを避難場所に、地域住民はマンパワーに等しい話し合いがなされた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へこまめに連絡を取り、地域包括へ定期的に足を運び、利用状況やイベントなど報告・相談する他、運営推進会議に出席頂き、より良い協力関係を築くように図っている。	市役所及び地域包括支援センターの担当職員とは日頃より連携をとっている。最近では、若年性認知症の方の日常生活の支援方法について相談し、アドバイスを受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・虐待防止委員会を設け月に一度、事例検討会を実施し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないように努めている。入居者の様子・所在を確認し安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	管理者及び職員は身体拘束、言葉による拘束の弊害をよく理解しており、拘束をしない介護を行っている。前回の評価で玄関の施錠を指摘された。会議で検討した結果、ドアを開けるとチャイムが鳴るようにする等、現在では施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・虐待防止委員会を設け月に一度、事例検討会を実施し、管理者が介護業務に入り入居者の身体チェックを行うことで、防止を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度についての研修を受講。受講報告を基に研修資料を職員全員へ周知を図る。玄関入口にパンフレットを設置などして情報の提供を行っている。	成年後見制度利用の手続きが進行している利用者家族が1名、資料を手渡し制度説明を行った利用者家族が2名いる。家族から聞かれた場合、情報提供できるように職員全員が制度を理解できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書・重要事項説明書をお渡し、契約の締結や解約は家族が納得するまで時間を設け十分な説明を行う。又改定等に関しては同意書を作成し、十分な説明を行った上で、署名・捺印を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1度家族代表者に参加頂き意見、要望を運営に反映できるように努めている。また、年二回、家族会を開催し、利用状況、事故、サービスの修正を報告、話し合い、運営に反映させている。	家族会開催時や面会時に意見や要望を聞いている。また、玄関に目安箱を設置しているがこれまでに活用されたことがない。	意見や要望は言い出しにくいものであることを考慮して、目安箱のそばに紙や筆記具を用意する等の、家族や来訪者が自由に書けるような工夫が望まれる。得られた気づき等を運営に活用していく事も期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する会議を月に一度設け、職員全員で検討し反映させている。また、管理者は随時個別で時間をとり、職員の意見を聞いている。	月1回の合同会議、その後のフロア会議の席では全員が自由に意見を言える状態にある。その席上で意見や提案が出た場合は全員で検討し、できるところから運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と条件や職場環境に関し、個別で時間を設け話し合い改善に努めている。また、適時やりがいや介助方法等の助言や指導を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して年齢・性別は問わない。現在20代から60代の職員が勤務している。また職員は得意とするもので伸び伸びと勤務していけるように配慮している。	職員を採用する際は、グループホームへの理解度及びその人の持っている雰囲気重視している。職員が資格取得を希望する場合は、講習会の案内や年次休暇を取りやすくする等のサポートを行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の全体会議や部署会議を通じ入居者・職員に思いやりのある丁寧な言葉使いを心がけている。又、必要に応じ管理者から職員へ適時指導を行い人権教育、啓発活動に取り組む。	月1回の全体会議で「人権尊重」のビデオを観て対応を話し合っている。利用者の状況に応じて臨機応変に対応することを共通認識にするよう、常に心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に研修期間を設けて技量や知識を把握し、一定のレベルまで引きあげる。また、スキルアップ委員会を月に一度開催し働きながらケアに関する知識と技量を高める機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所2ヶ所と相互に運営推進会議を出席し、意見交換を行い、他事業所との訪問活動を通じサービスの向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、ご家族やケアマネジャーやソーシャルワーカーといった諸関係の担当者から可能な限り収集を行う。又入居後も本人・家族から適時困っていること、不安なことを傾聴し対応している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、ご家族やケアマネジャーやソーシャルワーカーといった諸関係の担当者から可能な限り収集を行う。又入居後も本人・家族から適時困っていること、不安なことを傾聴し対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に体験入居を行い、正式な入居を受け入れる際の検討会議を開催し、その時必要とされる支援方法を見極め、その時に応じた柔軟な対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の食事を共に食べたり、レクを共に楽しんでいる。畑仕事の手順や植え時期を教わったり、調理や食器拭きなど一緒に出来る事は共にを行い、一緒に生活をしている関係を築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントの際には家族に連絡を入れ共にイベントに参加頂いたり、日常の状況に変化が見られた時に迅速に家族へ連絡を入れ、利用者の状態を把握頂いている。又、些細な事でも密に連絡を入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人や家族から生立ち等となるものを聴き関係が途絶えないよう支援に努めている。事業所は面会外出は自由とし、自宅に帰り近所づきあいされる利用者等馴染みの関係が継続出来るように支援している。	同一敷地内にある施設からホームに入居した複数の利用者を施設の友人が訪ねてきたり、利用者も施設を訪問する等の交流が続いている。また、図書館利用も利用者の希望に応じて支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファを置き、利用者同士で談笑し過ごす環境を設け、利用者同士の共通の好きなTV番組などを共に観たり、日々のレク等で利用者同士が関り合える支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気等で長期入院となりサービス利用が終了となっても、継続的に見舞いを行い、又転居等で事業所を離れる事が決まっても必要に応じて手紙や電話など出来る限り支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から生活歴や趣味、要望等の情報を得ると共に散歩時に好み等を話題にしながら傾聴することで、思いや意向の把握に努めている。発語の少ない方は、表情や仕草等から思いの汲取りを行っている。	担当を決め日々の介護の中で、思いや意向を把握するように努めている。明確に意向をさせない利用者については、どうしたいのか推測しながら本人の立場に立って考えるようにしている。それでも辛い表情の時は他の職員と話し合い、検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴を入居前にご家族やケアマネジャーやソーシャルワーカーといった諸関係の担当者から可能な限り収集し、事業所での生活が始まってからの都度新しい情報を把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者における日々の状態や一日の過ごし方などを毎日の申送り時に報告、検討し、即時対応している。月に一度会議を設け、職員が感じ取った入居者の様子や介助方法を検討し、現状に即した支援を努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議にて利用者の状況報告、ケア検討を行い、3ヶ月毎に本人・家族を交えた担当者会議を開催し医療等必要な関係者の意見を反映し現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月毎に本人及び家族と話し合い、一緒に介護計画を作成している。本人が発した言葉をそのまま計画書に記載し、本人の意向や気持ちが伝わるようにしている。主治医の指示、訪問看護や職員の意見も取り入れながら介護計画を作成しており、具体的なサービス内容となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・介護実践と結果を細かく毎日、個人の介護記録に記録。特記事項を申し送りノートに反映させ、共有を図り、部署内の会議時に介護実践と計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じて、訪問歯科・在宅マッサージ、往診可能な主治医といったその時に応じた柔軟なサービスの提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年より地域主催のサロンへ毎月1度参加し、地域の方と共に時間を過ごし、食事を摂る事で利用者への生きがい作りを担っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を選択できるよう支援している。週1回の訪問看護による支援を受け、利用者各々のかかりつけ医と連携を取り、異常の早期発見・症状の把握が図れるよう支援している。	本人及び家族等の希望を大切にしており、3分1の利用者は、以前からのかかりつけ医を受診している。通院介助は家族に依頼しているが困難な場合は、職員が対応している。受診結果に変化があればすぐに家族に報告している。また、利用者全員の処方箋を預り、調剤薬局を一本化してかかりつけ医との連携を更に深めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間、365日連絡が取れ、適切な対応がとれるようにしている。日常での変化を報告・相談し看護師・担当医へ連絡を取り必要な対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、管理者ならび職員が必ず立会い、病院関係者との関係を築き、早期退院できるよう円滑な情報提供をその都度行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成し重度化、終末期について可能な限りホームで対応する事を家族に説明している。ただし、医学的管理の高い重度化について段階において家族、医師を含め話し合いを重ね入院等の支援を行っている。	「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を作成し、契約時に説明して本人及び家族から同意を得ている。重度化した場合は、入院を希望する方が大半であり、これまでホームで看取ったことはない。今後、ホームでの看取り希望の場合は、利用者や家族の気持ちを受け止め態勢を整え支援していくつもりである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で起こったヒヤリハットや事故について事例検討を行っている。また、全職員が救急救命講習を受講しており、救急時の応援体制も整えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を年2回実施し、避難経路、避難場所、車椅子の方の避難方法を訓練時のみならず会議の中でも確認を行っている。地域の協力体制作りも取り組んでいる。	敷地内の施設と共同で、年に2回防災訓練を実施している。火災通報ボタンを押せば、登録している職員の携帯へ自動通報する仕組みとなっている。ホームが土砂災害の指定地域となっていることから、地域と合同で災害訓練を実施する予定で、計画の段階から参加要請が区長を通してあり、9月に話し合うことになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけや介助全般に一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけている。記録や個人情報の書類等は鍵のかかる書棚に保管して漏洩防止や秘密保持を徹底している。	その時々を利用者の気持ちに添った支援が出来るよう、全職員で取り組んでいる。不穏状態の方には、気持ちに寄り添い安心できるような声かけ対応をしている。法人内の改善指導を受け、1年程前から面会の記録ノートを面会カードに切り替え第三者の目に触れないようにした。また個人の書類は鍵のかかる書棚に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で、常に入居者へ傾聴を心がけている。想いや伝える事が難しい方へはアプローチ方法もその方に合った援助を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、入居者の思いも優先にしている。リビングで他入居者と談話を楽しまれたり、自室で読書したりと、入居者一人ひとりのペースを尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、朝昼夕食後、入居者に応じた対応(化粧、口腔ケアなど含む身だしなみ)を行う。また必要に応じて理美容も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れたトマトや胡瓜等季節に応じて、職員と利用者が一緒に食事を摂っている。又、目の前で握ってもらう寿司やバーベキュー、そうめん流しなど行い、食器拭きなど一緒に準備・片付けをして頂いている。	厨房職員が目前で握る寿司や、裏山の竹を切って作るそうめん流し等毎月趣向を凝らした食事イベントを企画している。誕生日には、家族の参加も呼びかけその方が食べたいおかずとケーキで祝っている。野菜の下ごしらえや食器拭き等個々の力を活かし、利用者と同じ食卓を囲み同じ物を一緒に食べる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の食事の摂取量や水分量を一覧表を作成し、日々の量を把握している。また、食べる量や水分量が少ない方へ嗜好食にかえたり、摂りやすい形に変えたりと工夫し支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員へ口腔ケアを促し確認を行う。義歯の方へ夜間はボリデントに漬けるなど、個々に応じている。訪問歯科医が毎週歯の治療を行い、口腔状態の改善を図っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターン、日常生活の様子、失禁の状態等を把握することで、リハビリパンツから布パンツに移行したり、パットの使用量が軽減されるなど、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握している。失敗やおむつの使用を減らす等、自立に向けた支援に取り組んでいる。一人ひとりの排泄パターンに応じた誘導や介助により、常時おむつを使用していた方が、日中おむつが外れ今では昼夜ともおむつ無しの生活をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便状況を日々把握しており、個々に応じて、ヨーグルトやヤクルト等の飲食物での工夫や、散歩など運動など支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉がひいてあり、一日おきの午前中を入浴の基本としているが、希望があればいつでも入浴できる体制になっている。利用者の好みや行事としてパラ湯やゆず湯など季節感を味わえる入浴の支援を行っている。	ユニット毎に曜日を決めていたが、一人ひとりの気持ちに沿った介護を目指そうと基本的な考え方に戻り、毎日入浴できるような態勢に7月から取り組み始めている。入浴が億劫な利用者も職員の声かけの工夫でスムーズに入浴が出来る。温泉に入る楽しめるとともにゆず湯や菖蒲湯で季節を感じて頂くよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調や気分によって自由に休んで頂き、今まで使っていたカーテンや寝具などを持参頂いて安心する空間作りに努め、心穏やかに眠れる様、不安なことなど傾聴の姿勢を保っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の意図や処方経緯等を理解するまで説明を受ける。服薬後の状態把握に努め、状況に応じ医師へ報告を行う。また、入居者への薬局を一元化し、不明な点や薬の把握が出来、医療面で協力頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割、嗜好品や楽しみごとと把握しており、ご自身の居室清掃や菜園で野菜作り、季節を意識した生け花など四季折々の花見や果物狩り、工場見学等を企画し実行している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や天気に応じて、隣の公園や武蔵寺への散歩等戸外に出かける支援に努めている。ドライブや莓狩り等を出かけ、場所等を応じて家族に協力頂きながら支援している。本人の希望を取り入れ買物や外食等の個別支援も計画し実践している。	1日1回は戸外へ出かけるよう支援している。歩行困難な方は車椅子で敷地内の散歩により、気分転換や季節を感じられるよう支援している。また家族の参加を呼びかけ花見や道の駅等への外出レクリエーションも企画している。図書館や化粧品等の買い物は、2ヶ月に1回の頻度である為、今後は行きたい時に行きたい場所へ出かけられる個別支援の充実を目指している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者・家族の希望や能力またはお金への価値観に応じて、職員で支援方法を検討、入居者・家族と話し合い、お金についての支援を行う。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の気持ちを第一とし、電話や手紙のやり取りができるように、ご家族へ支援について十分に説明し、理解頂いたうえで支援している。また、その時の状況等を含めた報告をご家族に行う。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内外は清潔感があるよう清掃を心がけ、空調と適当な採光で心地よく過せる空間になるよう工夫している。又、対面式キッチンから調理の匂いと音が食欲をそそり、リビングには紫陽花の作品を飾り、生活感と季節感を味わって頂けるようにしている。	居間には利用者が集い、テレビを見たりクッションを枕にソファで横になったりと、くつろぎの場所となっている。訪問時、七夕飾りや、利用者全員の作品を張り合わせた金魚鉢と紫陽花の壁飾りがあった。飾る際には、家庭的な雰囲気を壊していないか、幼稚っぽくならないか職員で検討しながら、利用者にとって居心地のよい場を整えていく工夫を重ねている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設け、利用者同士で談笑し過ごして頂いたり、時に一人掛けのリクライニングソファで落ち着いて過して頂けるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して居心地よく過ごせるよう家族と協議し、使い慣れた家具、寝具、テレビや家族写真などお気に入りの持ち込んで、居心地良く過ごせるようにしている。	居室には、長年大事に使いこまれたであろうダンスや鏡台などが持ち込まれている。また好きな歌手や家族の写真などが飾られ、思い思いの部屋となっている。また、行事の写真やホームからの記念品等を飾り、その人らしく心地よく安心して過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉や自身で開閉できるような形状・重さにし居室やトイレなどの表示を大きくしている。又、トイレや居室の空間は広く使い勝手が良いように工夫している。		